

岐阜パルコ 来夏閉鎖

売り上げ伸び悩み

名古屋圏との競合響く

ファッションビル岐阜パルコ(岐阜市神田町)が二〇〇六(平成十八)年八月三十一日で閉鎖することが三十一日、決まった。経営するパルコ(本社東京都渋谷区、伊東勇社長)が同日の取締役会で決定し、発表した。経営環境の変化で売り上げが伸び悩み、建物の老朽化対応も迫られたのが理由。一九七六(昭和五十一)年の開業以来、若者のファッション文化を発信してきたが、三十年で幕を下ろすことになる。閉鎖後の利用は未定。【関連記事6、31面】

岐阜パルコがある同市 ち込み、減損会計の早期化。適用により赤字に陥った。二〇〇〇年に開業したJＲ名古屋駅のシェイプール名古屋タカシマヤを

岐阜パルコは、山勝百貨店を吸収する形でオープン。地下一階、地上八階建てで店舗面積は約八千二百平方メートル。存在感あるDCブランドなどをそろえ、人気を集めた。二〇〇五年二学期は売上高二十四億八千九百万円、ピーク時(一九九二年二学期)の三割程度まで落



はじめ郊外型大型店舗とも競合。「ヤングを対象とするパルコの業態が岐阜では成り立たない(同社)と判断。建物が築四十五年と老朽化したことも理由となった。閉鎖に伴い、固定資産除却損などの特別損失約九億三千万円を見込む。

社員十人とテナント五十店の従業員約二百人が働いており、社員は異動などで雇用を継続少している。



閉鎖を発表した岐阜パルコ。岐阜市は街づくりで大きな岐路に立たされている。31日午後6時、岐阜市神田町

とするパルコの業態が岐阜では成り立たない(同社)と判断。建物が築四十五年と老朽化したことも理由となった。閉鎖に伴い、固定資産除却損などの特別損失約九億三千万円を見込む。社員十人とテナント五十店の従業員約二百人が働いており、社員は異動などで雇用を継続少している。

する。

名鉄岐阜駅周辺では二〇〇〇年に岐阜ロフトが進出した一方で、二〇〇二年にダイエー岐阜店が閉鎖した。柳ヶ瀬でも一九九九年に岐阜近鉄百貨店(京都近鉄百貨店岐阜店)、二〇〇二年に長崎屋岐阜店が閉鎖してお